

## 東海経済レポート（2014年9月）

～景気は緩やかに持ち直し～

経済調査室（名古屋）

### 1. 足元の経済情勢

- ✓ 生産は、7月に前月比+4.6%と2ヵ月振りに増加。業種別では、電子部品・デバイスなどが全体を牽引。
- ✓ 設備投資については、その先行指標とされる金属工作機械の国内受注額が、7月に前年比+25.3%と12ヵ月連続でプラス。
- ✓ 輸出額（円ベース）は、8月に前月比▲7.4%と2ヵ月振りに減少。
- ✓ 雇用関連では、7月の愛知県の有効求人倍率が1.53倍と、6ヵ月振りに低下。他県もおおむね同様の方向。
- ✓ 個人消費では、7月の百貨店・スーパー・コンビニの小売主要3業態の販売が前年比+2.1%と3ヵ月連続でプラス。7月の新車販売台数は前年比▲3.4%と、2ヵ月振りにマイナス転化。
- ✓ 住宅着工は、7月に年率換算で7.5万戸と、昨年12月以降は低調な推移。

### 2. 当面の注目点・リスク要因

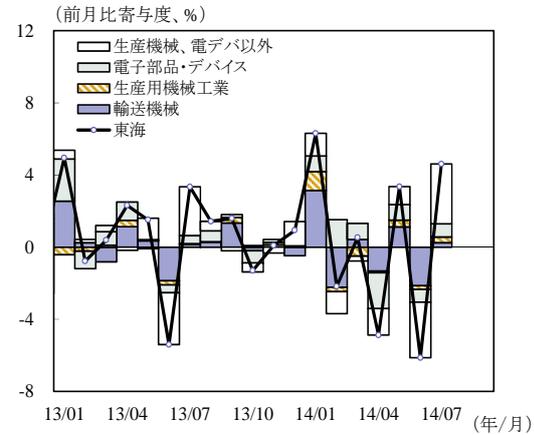
- ✓ 消費税率の引き上げという景気下押し要因はありつつも、足元までの月次指標は、東海経済が7-9月期に緩やかなプラス成長に回帰する姿を示唆している。ただし、悪天候の影響もあり、消費者態度指数が前年同月水準を下回ったままであるなど、景気の先行きは予断を許さない状況である。
- ✓ そうした中、政府・与党は10%への消費税率再引き上げを予定通りのスケジュールで行うか否かの議論を、年末に向け本格化させていくことになる。景気動向や内外のリスク要素を見極めながら、難しい判断を迫られることになるろう。
- ✓ 東海経済にとっての当面の注目点は、①製造業を中心とした円安メリットを受ける企業が、人手不足と資材価格上昇・需要の減少に直面している内需型企業の業績悪化等を打ち返すことができるか、②足元の株価上昇基調が維持され、雇用・所得環境の改善と相まって、個人消費をしっかりと上向かせることができるか、などと考える。

**生産①** 7月の鉱工業生産指数は前月比+4.6%と2ヵ月振りの増加。



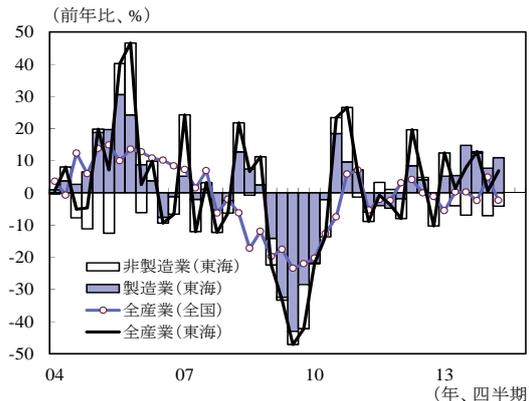
(注)1. 季節調整値。  
2. 東海は愛知、岐阜、三重の3県。  
(資料)中部経済産業局「管内鉱工業の動向」等より  
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

**生産②** 業種別では、電子部品・デバイスなどが全体を牽引。



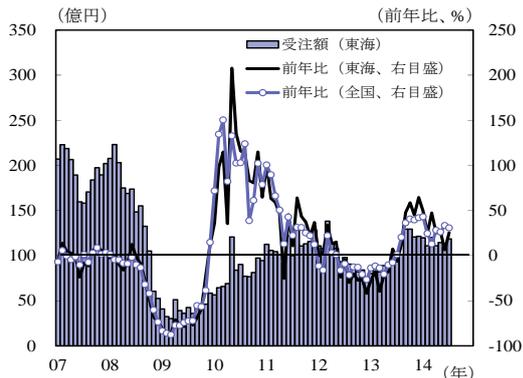
(注)1. 季節調整値。  
2. 東海は愛知、岐阜、三重の3県。  
(資料)中部経済産業局「管内鉱工業の動向」等より  
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

**設備投資** 4-6月期の資本金10億円以上の大企業の設備投資(除くソフトウェア)は、前年比+6.8%と、再加速。



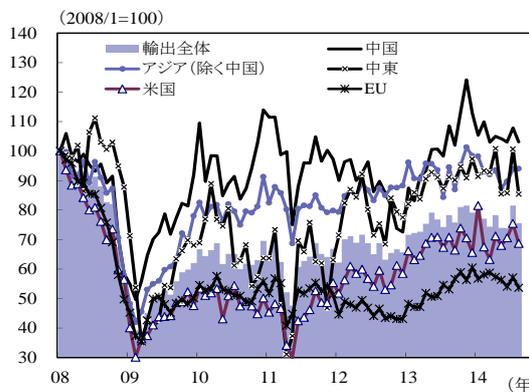
(注)1. 東海は愛知、岐阜、静岡、三重の4県。  
2. 資本金10億円以上の企業を対象。  
(資料)東海財務局「四半期別法人企業統計調査」より  
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

**金属工作機械受注(国内)** 設備投資の先行指標とされる金属工作機械の国内受注額は、7月に前年比+25.3%と12ヵ月連続でプラス。



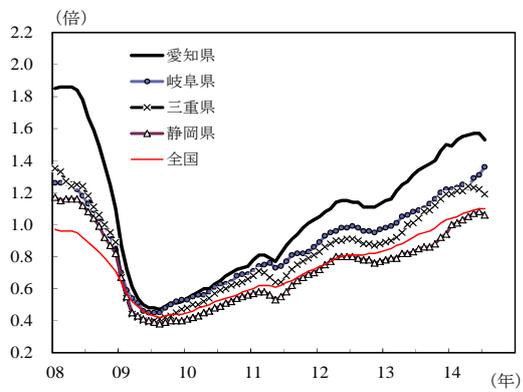
(注)1. 東海は中部経済産業局管内の主要8社。  
2. 受注額は当室による季節調整値。  
(資料)中部経済産業局「金属工作機械受注状況」等より  
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

**輸出** 8月の輸出額(円ベース)は、前月比▲7.4%と2ヵ月振りに減少。



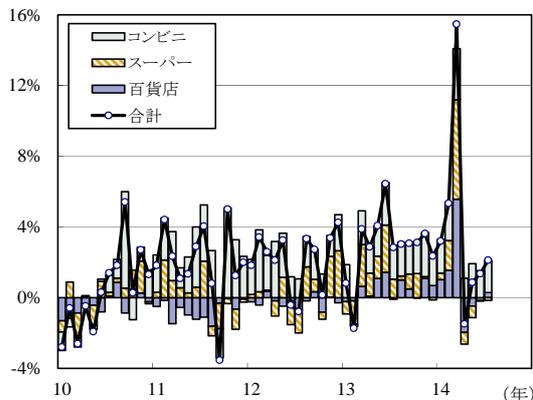
(注)1. 当室による季節調整値。  
2. 愛知、岐阜、三重、静岡、長野の5県。  
(資料)名古屋税関「管内貿易概況」より  
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

**雇用** 7月の愛知県の有効求人倍率は1.53倍と、6ヵ月振りに低下。他県もおおむね同様の方向。



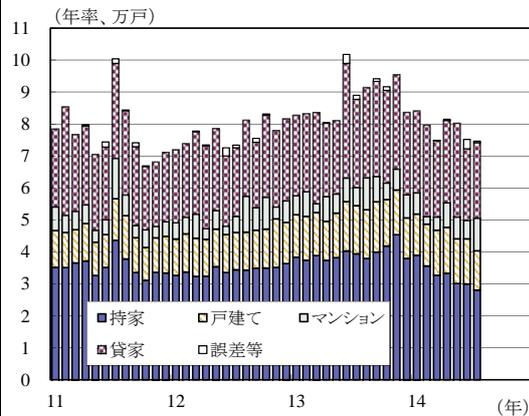
(注)1. 有効求人倍率=有効求人数÷有効求職者数。  
2. 季節調整値。  
(資料)厚生労働省「一般職業紹介状況」より  
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

**個人消費** 7月の小売主要3業態の販売は、前年比+2.1%と3ヵ月連続でプラス。



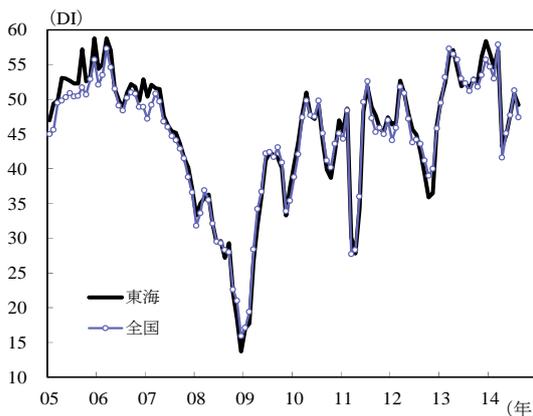
(注)1. 愛知、岐阜、三重、富山、石川の5県。  
2. 当室による季節調整値。  
(資料)中部経済産業局「管内大型小売店販売概況」より  
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

**住宅投資** 7月の住宅着工戸数は年率換算で7.5万戸。昨年12月以降は低調な推移。



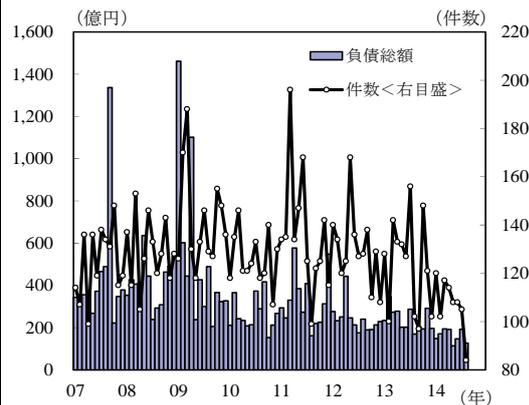
(注)愛知、岐阜、三重の3県。季節調整値は当室試算。  
(資料)国土交通省「建築着工統計」より  
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

**景気ウォッチャー調査** 8月の景気現状判断DIは49.2と、4ヵ月振りに低下。



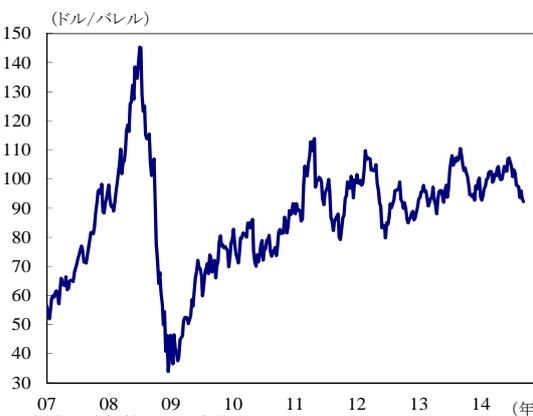
(資料)内閣府「景気ウォッチャー調査」より  
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

**倒産件数** 8月の企業倒産件数は84件と、前年比▲32.7%の減少。負債総額も同▲25.3%と減少。



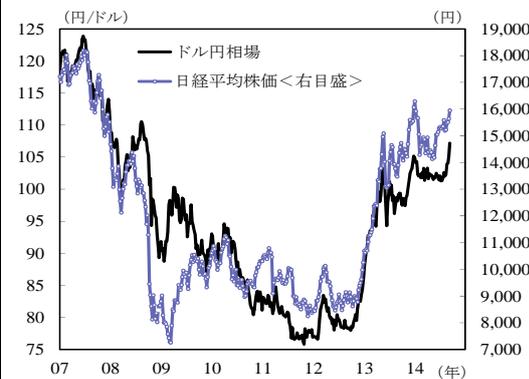
(注)愛知、岐阜、三重、静岡、長野の5県。  
(資料)東京商工リサーチ「倒産月報」より  
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

**原油価格** リビアなどの生産増や新興国需要の減速が長期化するとの見通し等を背景に、90ドル前半まで下落。



(注)原油価格はWTI先物。  
(資料)Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

**円相場・株価** 円相場は、日米金利差が拡大すると観測を背景に、109円台へ下落。株式は、米国経済指標が力強さを増してきたことや、円安などを受け、2007年以來7年弱ぶりの高値となる16,300円台まで上昇。



(資料)Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

(H26.9.25 富田 潤 jiyun\_tomida@mufg.jp)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しく願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。